

2019年7月1日

【朝鮮半島レポート】第3回

## 米朝首脳、同床異夢の「電撃」会談 内政にらみの演出、実務協議は難航も

朝鮮半島経済研究会

トランプ米大統領は6月30日、北朝鮮の金正恩委員長と南北軍事境界線上の板門店で3度目の首脳会談を行った。トランプ大統領のツイッターでの呼びかけからわずか1日で実現した「電撃会談」で、両首脳は膠着状態にある非核化交渉の再開で合意した。しかし、今回の会談は内政にらみのパフォーマンスの色彩が強く、焦点の非核化問題をめぐる米朝の隔たりは大きい。今後2～3週間で再開予定の実務協議の先行きは不透明だ。

### 【第3回のポイント】

- ① トランプ大統領と金正恩委員長は会談で、膠着状態にある非核化交渉の再開で合意した。2～3週間以内に実務者協議を開く計画だ。両首脳はワシントン、平壤への相互訪問も呼び掛けた。
- ② 会談はトランプ大統領のツイッターでの呼びかけからわずか1日で実現したとされる。しかし、対話の再開は双方が望んでいたことで、以前から伏線はあった。両首脳は内政をにらみ、南北分断の象徴である板門店で会談を宣伝の場としてフルに活用した。
- ③ 最大の焦点である非核化問題をめぐる米朝の隔たりは埋まっていない。大統領が柔軟発言を行い、一部で妥協案も取りざたされるものの、実務協議の先行きは不透明だ。

### ■ 2～3週間以内に実務者協議、両首脳の相互往来も目指す

大阪での主要20カ国・地域（G20）首脳会談後、韓国を訪問したトランプ大統領は6月30日午後、南北軍事境界線上の板門店を訪れ、韓国側施設の「自由の家」で北朝鮮の金正恩委員長と約50分間会談した。

米朝首脳会談は昨年6月のシンガポール、今年2月のハノイに続き、3回目だ。会談の冒頭、トランプ大統領は「歴史的なことだ」と指摘。金委員長も「この場所は南北分断の象徴だ。この場で平和の握手をすることが今後、より良くできることを示すことになる」と応じた。

両首脳は会談で、物別れに終わったハノイ会談以降、膠着状態が続いた非核化交渉を再開することで合意。トランプ大統領は会談後「今後2～3週間以内に実務者協議を開く」との見通しを明らかにした。

席上、トランプ大統領は金委員長をワシントンのホワイトハウスに招待。米韓

のメディアによると、金委員長もトランプ大統領を平壤に招待すると伝えたという。米国と北朝鮮は1950年からの朝鮮戦争で戦火を交えた。53年には停戦協定が締結されたものの、両国間には国交関係がなく、米朝双方の首都への首脳訪問は、実現すれば史上初めてのことになる。

### ■内政にらみ成果をアピール、あうんの呼吸でパフォーマンス

首脳会談に先立ち、トランプ大統領は南北の軍事境界線を越え、出迎えた金委員長と握手を交わした。

現職の米大統領が北朝鮮側に足を踏み入れたのは史上初めてだ。トランプ大統領は「素晴らしい瞬間を迎えた。軍事境界線を越えたことは大変光栄だ」と表明。金委員長も「良からぬ過去を清算し、未来に向かうことになる」と述べた。この映像は米朝の融和を印象付ける場面として、テレビなどを通じて世界中に伝えられた。

#### 板門店での米朝首脳会談のポイント

・トランプ大統領は今後2－3週間以内に米朝が交渉チームをつくり、実務協議を開くことで合意したと発表
・トランプ大統領は金委員長を米ホワイトハウスに招待、金委員長は大統領を平壤に招待
・トランプ大統領は交渉を急がず、包括的な合意を目指すと表明
・トランプ大統領は長距離弾道ミサイルと核実験停止の重要性を指摘
・トランプ大統領は北朝鮮への制裁を維持する一方、緩和の可能性にも言及

トランプ大統領のツイッターでの呼びかけからわずか1日で実現した「政治ショー」だが、実は伏線があった。

そもそも、首脳レベルの対話再開は両者が望んでいたことだった。北朝鮮ではハノイでの2度目の米朝首脳会談が物別れに終わり、失望が広がっていた。国際社会による経済制裁が続く中、経済状況も厳しさを増しており、指導部は対米関係改善のチャンスをうかがっていた。対するトランプ大統領も来年の大統領選を控え、核実験や長距離ミサイルの発射実験をしないよう金委員長に念押ししたい思惑があった。

板門店での米朝首脳会談自体、仲介役を目指す韓国が以前から温めていたアイデアで、6月末ではなく、5月下旬のトランプ大統領の日本公式訪問後の実現を探る動きもあった。中国の関係筋は、習近平国家主席が6月20－21日に平壤を訪問したのも、近い時期に米朝関係が進展する可能性を視野に入れてのことだったと証言する。

実際、6月に入ってから、トランプ大統領と金委員長が親書を交換しており、「電撃会談」は双方のあうんの呼吸で実現したともいえる。

このため、板門店での首脳会談では、2人がお互いを称え合い、国内向けの宣伝としてもフル活用した。トランプ大統領は会談に応じた金委員長に謝意を

示すとともに、民主党の大統領候補者選びがスタートしたことも意識し「私が大統領になる前は韓国も北朝鮮も危険な状態だった」と自らの実績をアピール。金委員長は「2人の素晴らしい関係でなければ、1日でこのような対面を実現できなかった」とトランプ大統領との関係を誇示し、翌日の「労働新聞」はじめ官製メディアを通じて会談の成果を宣伝した。

## ■憶測呼ぶ大統領の発言、非核化と制裁緩和めぐり駆け引き

両首脳は実務協議の再開で一致したものの、最大の焦点である非核化問題などをめぐる米朝の隔たりは埋まっていない。

実務協議のメンバーは、米側はポンペオ国務長官が選ぶことにしており、ビーガン北朝鮮担当特別代表らが中心になる見込み。北朝鮮側は李容浩外相—崔善姫第1外務次官の外務省ラインが中心になるとみられている。

協議の枠組みをめぐっては従来から、米側が非核化問題に的を絞った協議を望んできたのに対し、北朝鮮はシンガポール会談での共同声明に盛り込んだ①新たな米朝関係の樹立②朝鮮半島の恒久的な平和体制構築—との並行協議を望んできた。

焦点の非核化問題ではハノイ会談において、米側が完全な非核化を求めたのに対し、北朝鮮側は寧辺の核施設などに絞った段階的な非核化案を提示。民生に関わる制裁緩和などの見返りも求め、物別れに終わった。

トランプ大統領は今回の板門店会談後、記者団に対し、今後の協議について「スピードではなく包括的な合意が重要だ」と指摘した。安易な妥協は来年の大統領選にかえってマイナスとの見方もあり、対話の再開に期待を示しつつも、成果は急がない考えを示したと受け止められている。

両首脳は対話再開では一致したとはいえ、完全な核放棄に向けた一括妥結を求める米側と、非核化と見返り措置を段階的に進める北朝鮮案との溝は深く、現時点では「同床異夢」ともいえる。

一方、今回の米朝会談や中朝会談と前後し、中国や韓国では北朝鮮が「寧辺+ $\alpha$ 」の妥協案を出したのではないかとの見方も浮上している。

トランプ大統領も「我々が議論しているのは長距離弾道ミサイルだ。最も大事なものは核実験がないことだ」と記者団に述べるなど、長距離弾道ミサイルの廃棄などを優先させるかのような発言もした。制裁に関しても「外すことを楽しみにしている」「交渉のどこかで時点で様々なことが起きえる」と含みを残しており、関係国を巻き込んだ駆け引きが激しさを増しそうだ。

本稿の無断転載を禁じます。

詳細は総務本部までご照会ください。

公益社団法人 日本経済研究センター

〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7 日経ビル11F

TEL:03-6256-7710 / FAX:03-6256-7924